

3月20日(水) 18時45分～21時15分

# マルクス生誕200年——『資本論』の生命力を実証する

- 報告 = **鎌倉孝夫** (埼玉大学名誉教授)
- 会場 = 本郷文化フォーラムホール
- 参加費 = 1,500円 (学生1,000円)

## [報告者から一言]

マルクス生誕200年、『資本論』第一刊発行150年を過ぎたいま、『資本論』の生命力は輝きを増している。

新自由主義の展開の中で、「資本」はその本質を露わに現出させている。資本とは何か。金<sup>カネ</sup>儲けを目的とする金の運動、利己的利潤追求の運動である。その資本の金儲けの自由を保証する思想・政策が新自由主義である。

マルクスは「株式資本」を資本の完成形態ととらえ、『資本論』は株式の擬制資本としての性格——その寄生性・投機的、収奪的本質を明らかにした。この理論的分析によって株価至上主義、その下でなぜ労働者が生きる権利を奪われているかを解明する。

『資本論』は、人間社会の成立・発展の根拠（実体）を明らかにしている。この実体の担い手＝主体である労働者の意識的協力体としての社会主義の原理をも明らかにしている。

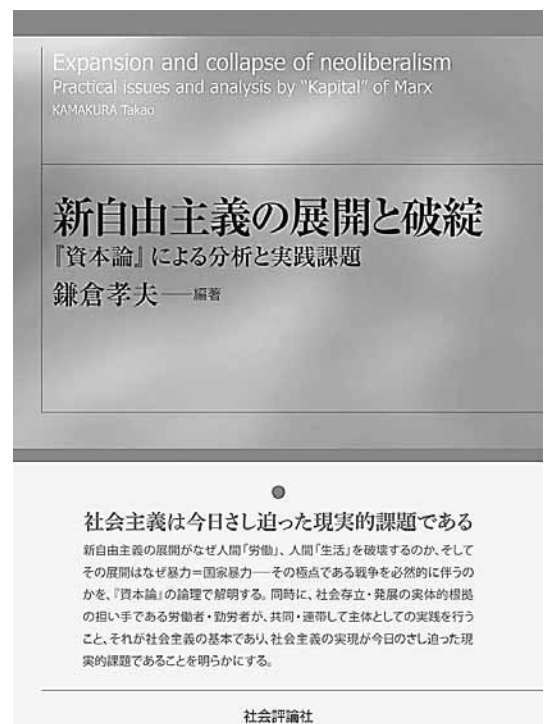
今日の資本が、社会の本来の主体である労働者の生きる権利を奪っているとき、社会の本来の主体である労働者を現実の主体とする社会＝社会主義の実現が現実的課題となっている。

今回は、私の編著『新自由主義の展開と破綻—『資本論』による分析と実践課題』（社会評論社、2018年12月）を使って話します。

## [HOWS事務局より]

上記の書籍をHOWS事務局で取り扱っています。

〈講座の会場です〉 〒113-0033  
 東京都文京区本郷3-29-10 飯島ビル1階 小川町企画内  
 本郷文化フォーラム・ワークススクール (HOWS)  
 電話：03-5804-1656 FAX：03-5804-1609  
 E-mail：hows@dream.ocn.ne.jp



社会評論社  
 社会評論社刊 2,200円＋税

